

会議名 (審議会等名)	令和3年度第2回川西市子ども・若者未来会議		
事務局 (担当課)	川西市教育委員会 子ども未来部 子ども支援課 内線(3441)		
開催日時	令和4年2月7日(月) 17:00~19:00		
開催場所	ハイブリッド方式(消防本部3階大会議室、Zoom)		
出席者	委員	(会長) 農野寛治会長 (委員) 玉木委員、余田委員、森友委員、藏原委員、田口委員、岩永委員、喜多川委員、秋葉委員、丸野委員、楠田委員、中江委員、岡委員、大塚委員、佐々木委員、天立委員、田中委員	
	事務局	子ども未来部長 山元昇 子ども未来部副部長 釜本雅之 教育推進部副部長 山戸 正啓 子ども未来部子ども支援課長 井上昌子 入園所担当課長 橋川貴夫 留守家庭児童育成クラブ担当課長 井関大悟 子ども・若者相談センター所長 木山道夫 教育推進部副主幹 岩倉 明子 子ども未来部 子ども支援課主任 窪田裕一 上野裕也 川西子ども園園長 加茂 文子 多田幼稚園園長 山本 由美子	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・一部不可	傍聴者数	3人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会議次第	議事 (1) 市立就学前施設の入園所予定状況及び市立就学前施設のあり方検討について		

会 議 結 果	(1) 市立就学前施設の入園所予定状況及び市立就学前施設のあり方検討について承認
---------	--

審 議 経 過 (要 旨)

1. 開会 (15:00)

(事務局)

事務局のあいさつ、通信及び欠席者の確認。

(事務局)

(1) 市立就学前教育保育施設のあり方についての素案について説明

(会長)

ご説明ありがとうございました川西市の市立就学前教育保育施設のあり方についての素案、清和台幼稚園のあり方についての素案、今後のスケジュールについてご説明いただきましたが、まず市立就学前教育保育施設のあり方についての素案でございますが、こちらに関して何かお気づきの点あるいはご意見ございましたら委員の皆様方から頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

5ページのこども園の利用状況で一番下の川西北こども園なのですが1号が100名、2・3号が80名となっているんですけども、1号の在籍数が年々減少してこの令和3年度は36名なのですが、これで100名の定員設定、トータル180名の定員設定というのは妥当なんでしょうか。

(事務局)

ご質問ありました来年度4月開園予定の川西北こども園ですが、1号の定員設定が3歳4歳5歳合わせて100名定員で設定をしております。こちらにつきましては、子ども・子育て計画に基づき定員の整備を進めてきたところでございます。現時点では100名という設定でさせていただいておりますが、令和4年度4月に迎える1号の見込みが現時点では52名で想定しております。こちらにつきましては100名の定員に比べて52名のかたで4月をむかえるということで少し差があるというところでございます。今後におきまして、1号の人数が減ってきている状況を考慮しまして、適切な時期に定員につきましてはどのようにしていくかという見直しを検討していただきたいと考えているところでございます。

(委員)

あとの3園は、牧の台は100%をちょっと超えているんですね。加茂と川西は約84%と92%。ほぼ妥当な数字だと思うんですけど、あまりにも北こども園の定員と実数が乖離しすぎているんじゃないかと感じて質問させていただきました。この辺はやはり再検討される方がいいんじゃないかと思います。

もう一点よろしいでしょうか。

7ページなんですけども、③の東谷幼稚園の件なんですけども幼稚園も減少の一途をたどってるんですけどもここで5人未満となった場合は廃園を検討する。じゃあ5人以上となった場合は幼稚園の運営を継続しますとなっているんですけども、これが3ページの囲っているところの集団教育についてというところの文言とかなり乖離してるんですけどもこの辺はどうなのでしょう。どこでこの5人の、5人いれば継続、5人未満であれば廃園、5人というのはどこから来るのでしょうか。それをちょっと教えていただきたいと思います。

(事務局)

5人という人数の根拠についてなんですけれども就学前の施設において実施をしている集団教育保育を実施するにあたりまして、前のページでは理想的な人数ということで望ましい人数ということで21人～30人という形で記載させていただいているところがございます。この程度的人数が集まるのが望ましいんですけども現状なかなか難しいといったところもあります。果たして集団といえる程度的人数の最低限の人数はどの程度なのかという風なことで考えた場合、やはり5人は最低いるだろうというふうなことで教育委員会の中で検討させていただきまして、5人を一つの目安という形にさせていただいたところがございます。

(会長)

東谷幼稚園さんは5人未満で廃園ということなんですけど令和4年度は4歳児は8名今のところおられるのですか。利用者の見込み数で8名と出ているのですが、これにさらに5名以上集まったら幼稚園を続けるということですか。

(事務局)

令和4年度の入園予定児童数は4歳児が8人、5歳児が15人合計23人ということでありまして。先程ご説明させていただきましたのは来年度以降の募集、5人というものを一つの目安とさせていただくということでありまして。来年度の募集、再来年4月に入って来られる子どもさんの人数が5人を上回るようでしたら幼稚園として継続していく。5人未満となれば廃園を検討していくという形にさせていただいております。

(委員)

7ページのその他のところなんですけども、支援が必要な子どもに対する支援について伺いたいと思います。家の近くに市立の幼稚園、保育所、こども園がない場合ですが、私立の幼稚園に行く選択肢もあるんですが、私立の幼稚園には加配職員がつくことがほぼないため、通わせることが心配だという声をよく聞きます。現在市立幼稚園の方は実際どのような状況になっているのかということと、加配がついていないような状況であれば施策的に何か考えていただけるのかというところを伺いたいと思いますのでよろしくお願ひします。

(事務局)

就学前の子どもたちに加配が必要かどうかという協議は、教育支援委員会と就学前児童支援調整部会というところで検討させていただいております。そこでは公立に通いたいというお子さんも私立に通いたいというお子さんもどちらも審議をしております、必要であれば加配を配置していくというような審議をさせていただいております。ただ、補助金を支給する大元のところによりましてその調整部会の対象にならないところも一部ありますが概ね対象となっておりますのでよろしくお願ひいたします。

(委員)

私は学校の教員なのですが、昨年度2年間幼児教育の方を担当させていただいて、全くの素人が保育を見せていただいて公立または私立の方を足運んで見ていただいたんですけど、今回話し合いの中で人数のところ焦点に当たって進められているんですけども、7ページの(4)その他の「質の高い就学前教育保育

を受けることができる環境を整える」というところで、できるだけ多くのところで子どもたちが活動するという事に越したことはないかと思うんですけど、保護者の方がそれでもまだ公立を希望されるというところはなんなのかなというところを我々は考えていく必要があるのかなと思うんです。先程委員がおっしゃっていた加配というところも大きなところかと思うんですけど、公立寄りの意見になってしまって大変申し訳ないんですけど、公立が全ていいとは思わないんですけど、経営という私立は大きな課題があつて、色々と私たちがはかり知れないところがあるかと思うんですけど、子どもたちが伸び伸びとその子に合った教育保育というところを考えた時に、小学校就学した時の様子を見てみると、どうしてもある程度成果を出さないといけないというあるべき形とそうじゃない部分とで子どもの発達や顔つきがすごく違うように個人的に感じたんです。今の状況で公立幼稚園を残していくというのは大変難しい状況であるとは重々承知しておりますし、いずれは廃園という方向で進んでいくかとは思いますが、そうした中で私立の保育をどうしていくのかというのを今までのやり方だけでなく、公立のやり方を入れながら、また公立も私立のやり方を学んでいながら共有して進めていくということがすごく大事ななと思うんですけども、そこで今言われている小学校に上がっていく上でのカリキュラムであつたりつなぎというところが重要になってくるかと思うんですけども、そこがなかなか、公立に対しては色々と話ができるんですけども、私立に対してはそれぞれいろんな考え方があつてそこを踏み込むことは大変難しいとは思いますが、多少公立の考えも入れていながら進めていく必要があるかなというところで、管轄が違うところでなかなか難しいんですけどもそこが大きな課題でないのかなと個人的に思います。

(会長)

公立を希望する理由、そういうニーズですよ。公立のニーズがあるはずで、どのあたりにあるのかを知りたいということなので今回は市民委員の方にちょっともし何か助言なりそういうお話いただけるのであればステークホルダーとして頂きたいんですけどいかがでしょうか

(委員)

主任児童委員をしております、市内の幼稚園には加配の先生が必ずとっていいほどいただきます。それと若いお母さんたちから直接聞いた話ですが、私立に入ったけども「うちではちょっとみれません」と、言い方悪いですけども弾かれたお子さんが公立園に通っているのが今の現状だと思います。私立はたくさん子どもたちがいて楽しいですけれども、その大勢の中では育ちにくい子どもさんがいらっしゃる。でも一人の子どもさんに一人の先生がつくってというのは経営上難しいのかなということで弾き出されて外へ出てしまった。本来子ども達はたくさんの中でもまれながら育つのが一番いい姿なんですけど、弾かれた子どもさんとお母さんは本当に行き場がなくて辛い思いをしている。現状として市立の幼稚園って結構暴れん坊の男の子が多かったりしている現状はその点があるかと思うので、委員がおっしゃった通り福祉の面から見ても育ちづらい子どもの受け皿という点を市の方が考慮して、先生は市が持つくらいの心持ちで、私立の園に派遣するくらいの心持ちで統廃合をもう少しお考えいただけたらと思っています。

(会長)

もともと社会福祉の仕事っていうのは明治時代から民間の様々な方々が福祉事業をやってきたわけなんです。それがちょうど日本が戦争に負けて戦後どういう形で民間の事業を継続していくかっていうそういうあたりで国として社会福祉法人というものを作って公のお金をつぎ込むことにしたと。本来国がそういう福祉の仕事を直営でやればいんですけど、それをすることができなくて、すでにその民

間の事業者さんたちがいろんないい事業していたのをここで潰すわけにいかないというそういう選択肢があって、やがて公私間格差の是正と言うか公立の施設と民間の施設の間で職員の方の待遇であるとかそういうのが格差があるというのがどういうことかということになって、公私間の是正っていうそういうことが議論が上がった時代もございました。昭和40年、50年ぐらいですかね。それはそういうものずっと経てですね、現在にきています。だからある意味公立の施設はパイロット的にいろんなことをやってこられて、そういうものをどんどんと残していく必要があってそういう公立の保育所さんがやっておられるノウハウをどこかが何か継承していくとかそういうものが必要だということと、もう一つは先ほどの加配の例になりますけども、具体的に言うと加配ということになるんでしょうけれど、公私の中でそういうサービスについてニーズに合ったサービスをやっぱり絶やさずにどっかで継続していくということが大事なことなのかなって思います。

(委員)

民間の保育所の立場からでお話しさせていただきます。市立幼稚園とはまた違うかと思うんですけども、兵庫県から認可を受けていますので国からの運営費っていう形で民間は運営させてもらってまして、加配についても先ほど事務局がおっしゃったように調整会議の方で加配の子ども達3対1で3人に1人っていう形の加配をつけてもらっています。その中でやっぱりどうしても年齢を超えて、例えば3歳の子を一人、5歳の子一人ってなった時に3対1になるのでその二人を一人の先生がみないといけないという状況にはなるんですね。そうすると年齢の差もありますし、みきれないので一人は園負担という形になってしまうんですね。これ3歳に一人、5歳に一人つけてあげたい。園としてはそうしたいのでどうしてもそこに一人プラスアルファして今つけてる状況ではあります。それはやっぱり補助金としては出ないので園としての園の保育士の給料から持ち出しという形でやっている状況ではあります。うちの保育園なんかは10年以上保育士を続けているベテランさんがすごく多い中なので人件費はかなり上がってきているんですけども、それだけやっぱりこの保育園が信頼されてその支援児も結構多い10人ぐらいの加配のお子さんがいらしたりした時期もありますし、看護師をつけないといけないぐらい重度の方もどのお子さんも集団保育っていうところを経験させてあげたいっていうので看護師さんも自分ところの法人からの予算でつけてという形でやってきたので、そういう中でみんな努力をしながら民間の保育園さんも重度の子を受け入れたりとか、加配の子を受け入れながらどの子も育てほしいという意味で私立の幼稚園なり保育所なり頑張っている部分もあるので、その部分に関してはもちろん公立のやり方も学んでいきたいと思っていますし、交流は大事だなと感じています。私も約30年近く保育士をやっていたので昔の公立の先生たちと交流してわらべ歌遊びをしたりとかやっていたので、交流するということはコロナでできないですけどもとても大事だなと感じていますので、公開保育等やっていただいているのでそういうのに参加しながら両方どもの保育のよさっていうのを知っていただけたいかなと感じます。

(委員)

私も子どもが公立幼稚園に通っていたんですけども、その時小学校に上がる際に8割から9割ぐらいが同じ園から上がるということで、新たにコミュニティを築かなくていいという保護者的なメリットはありました。ただ子どもたちというのはどんな環境であってもすぐお友達というのは作れると思うのでいいと思うのですけれども、現在のように子どもさんが減ってしまっている中であえて公立を選ぶ選択肢っていうのは保護者としてもよく分からないなというところがありました。

(会長)

小さい子の教育保育施設というのは、就学前を想定して小学校に上がるときに心強い友達がいる状況を作りたいというか、親も同じように園で友達だったり親しくなった親と一緒に子どもを育てていきたいという思いもあるのでしょうか。

(委員)

委員がおっしゃっていたように交流の場っていうのは非常に重要だなと思っています。私は上の子二人が市立と私立の園にいたので両方のところ見て両方に良い所と悪い所っていうのが、それぞれのよさっていうのがあるなとは思っていて、前回の会議終わった後にメールで送らせていただいているんですけど公立の場合は自由であったり加配の先生がすごく熱心にみてくださることとかはいいところだなという風に見て感じていました。ただ二人目の子が私立に行かせて頂いた時に一人おやめになったお友達がいてその方は加配をつけていただけないから公立にもう1回戻りますって言って行かれたっていう風に、加配をつけられないっていう風に言われたと、みてもらえないからちょっと戻りますって言って抜けられたお友達がいたり。その中でお仕事とか大人も交流する時間っていうのはどちらかというと公立の方がお迎えの時間皆さん一緒なのでお話ししたりっていうことで交流の時間そのものは公立の方が取れたのかなという印象があるんですけども、だけど人によってはそれがすごく苦痛だったっていう保護者の方たちもいらっちゃって、どうしても待ち時間に誰かと話さないといけないんじゃないかみたいなプレッシャーを感じて実は私立に変えましたっていう方も実はお会いしたことあります。なので双方にメリットデメリットはあるのだろうなという風に入ってみて、二人子育てしてて、まだ未就学の子がいるんですけど最終的に公立ではなく私立を私は選びました。理由がいくつかあるんですけども今問題になっている園に通われている方が少なくなっていることと2年保育であることっていうのがちょっと私の中では市立を選ばなかった理由にはなっています。ただ園でやっていることとか自由度みたいところは公立はすごく楽しそうに園を子どもは卒園していたので、本当は3年保育で園自体が少しお迎えがお仕事できる程度に長ければ公立にいたかったなというのが私の気持ちであります。

(会長)

先程公立の役割はある意味パイロット的な役割があるというお話をさせていただいたんですけども、今回厳しいことを申し上げますけども、現場のニーズに対応できていたのかということなんです。もっと早く3年保育あるいは2歳児も視野に入れて展開しておられたらどうだったのだろうかと思います。今後公立の園が少なくなっていく中で行政としては現場のニーズに対応できているのかどうなのかというあたりはしっかりと見ていただきたいという風に思います。実際に市立の保育園、幼稚園を運営しているからこそいろんなことがわかってくるということがありますので、園が少なくなってきたらなおさらのこと現場のニーズはどんなことがあるのか、何が求められているのかという風なことはしっかりと見ていただけたらと思います。

(委員)

ご家庭のあり方もいろいろで、おそらく幼児教育に対するニーズも様々になっているのかなという中で色々な園があるというのは悪いことではないのだろうという風には思います。ただ、何かの商品を買うのとは違ってお子さんが貴重な時間を過ごす場所ですので、一定の質というのは担保されなければいけないとい

うことで、加配の問題ですとか財源が関わってきますので、公立を選べないという状況を生むのであればその財源の確保みたいなのは必要なかと思いました。

もう一つ質的な向上に関しては、7ページの市立幼稚園のところに書いてありますが、就学前教育保育に関する質の向上に関する地域の拠点となる施設とするということで認定こども園をお考えようなのでここに期待したいなと思うところなのですが、今の時点で具体的にどのようにお考えかをお聞きしたいです。

(事務局)

例えば研修では民間の方が公立の方の研修に参加できるようなものを考えていたり、市の方で指定するような研修を今まででは公立だけで行っていたところを私立の方の参加もできるような体制を考えるなどそういったところで交流をしながら質を上げていくというところは考えています。

(事務局)

補足をさせていただきたいのですが、先程事務局が申しあげましたようなことも含めてなんですけども、令和7年度からの次の計画の中で具体化していく予定はしていますけれども、公立の認定こども園が北部から南部まで拠点というような形で位置付けをさせていただいて、それぞれの地区にあります民間園、公立のその他の保育所などの園としっかりと連携を図りながら市全体の保育の質の向上を目指していきたいという風に思っています。具体的にそれをやっていくにはどうしたらいいのかということについてはこれからの課題でもあるんですけども、今申しあげたような今までの取り組みを土台としながら公立も私立も全体として保育の質の向上を図っていくその拠点にこども園を位置付けていくそんな形で考えていきたいと思っています。

(委員)

子ども・若者未来計画の策定に係るスケジュールの案のところで書いていただいている、前回資料2-2でいただいております。その中で特に前段階として市立就学前施設のあり方についてということで取り出して議論されているんだなと思います。市立就学前教育のあり方、教育保育のあり方ではなくて施設のあり方についてが取り出されてますので、ここでは施設の配置とか人数とかの課題になるんだろうという風には思っています。ただ子どもたちがどう育っていくのかという話ですから、本来で言うと就学前教育保育のあり方についてを話し合う中で付随的に施設が出てくるのかなと思っていますが、そういう形ではなくてここでは取り上げてこられたんだなと感じています。前回の時に公が担うべきところはどこかということを中心に確認したいということでお聞きはしました。その時に子ども・子育て計画の58ページに書いています教育的役割、福祉的役割、施設間連携これが一定整理させていただいたところですよというご回答もいただいております。これをきちんと担える形で施設整備、もう一つは感染症がこれだけ流行った中で私たちの生活様式に即した形での盛り込んだものをこれから決めていこうということだと思っておりますが、それを踏まえての計画がこれからだと思っておりますけども、お聞きしたいと思いました。先程の認定こども園の期間の部分は令和7年度から盛り込みますということですけど、それまでの間の公が担うべきところはどういう風に担保していくのですか。公の教育保育が現状になってきたことの総括はどこで誰がされてどこに持ち込まれてどう評価を書いていくのかということについては次の子ども・若者の計画に書いていくのでしょうか。これまでの総括はどこですのでしょうか。公が担うべきところが施設ができるということまではどこが担っていることになるのですか。

(事務局)

市立の施設が担うべき役割の総括についてどこのタイミングでどういう風にやっていくのかということ、それを次の計画にどう反映していくのかという2点でお尋ねかと思えますけれども、今回の部分については施設のあり方ということで施設をどういう形で配置をしていこうかという風なことを中心に記載させていただいているわけですが、その前段では公立施設として一体どんな役割を担っていくのかという風なことをベースに踏まえた上でこのあり方という形で検討させていただいてきたところであり、前回もお話しさせていただいた通り現在の子ども・子育て計画の中で一定整理ができておりますのでそれを踏まえながらコロナの状況もございますのでそれを強化していく、次の計画策定に向けて評価をしていくという形になってくるだろうと考えているところでございます。今回は子ども・子育て計画中間見直しということで令和4年度取り組みを進めていくわけですがその中で評価をしていく必要があるかと思えますし令和7年度からの次の計画においてはさらにそれを推し進めて公立の果たすべき役割と、それをどういう形で具体化していくという風なことも含めて検討していくという形になっていくと思えます。

(委員)

子ども・子育て計画の中にも今後の方針と取り組みということで59ページに書いていただいております、今これをやってる最中の中間見直しのところで教育保育施設のあり方を再検討しなければならなくなったという状態をよく踏まえて考えていかないといけないなという風には思っています。中間見直しの時点でこういう大きな変化が起こることがないように形で計画を立てて実施していけたら長期的な視点を持って行けたのかなという風に思っています。

(会長)

続いて2番目の案件に移らせていただいてもよろしいでしょうか。清和台幼稚園のあり方についての素案という形で委員の先生方のご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

これも説明を受けたりはしているんですけど、集団の教育が難しいことになっていたり施設管理とか運営の部分でいろいろ課題がある中での対応が必要ということであるんですが、資料2-2で前回聞かせていただいた時には、NO.4の議題になっていたと思うんです。NO.4の議題というのが5月上旬の会議なのかと見ておりました。それが前倒しでここにきているんですけども、今1月でこれから令和4年4月には原案を取りまとめてその原案に基づいて清和台幼稚園については手続きを進めていきますという非常に親御さんとか子どもたちとか地域にしてみるととてもスピードが早い対応かなと思っています。全体の保育施設のあり方についての策定プロセスも素案から原案になるまでの間が3、4ヶ月、原案であればそれに基づいて進んでみたいという形になっているんですが、進め方の速度に対してはちょっと早いかなという風に思っています。

(会長)

地域の方々も利用されてる保護者の方々にとすると非常にスピード感が速いという対応ではないかというご意見をいただきました。

(委員)

9 ページのところに、令和4年4月いただいたご意見を踏まえて原案を取りまとめます。と書いてあるんですが、5W1Hで言うといつ、どこで、誰が、どのように取りまとめてどう公表されているんでしょうか。

令和4年2月から3月にも素案について子ども・若者未来会議などからご意見を伺いますと言うのがあるんですが、などと言うのはどこでどれくらいの期間で何箇所ご意見を聞く機会があって、原案は誰がいつどこで取りまとめてどう公表されるのかと言うところをお聞かせください。

(事務局)

子ども・若者未来会議などからご意見を伺いますと言うのは本日のことを想定させていただいておまして、本日会議の場で全て出尽くすと言うことはないかと思しますので、3月3日までという期日は設定させていただいておりますが直接こども支援課の方へメール等で送っていただいて集約をさせていただきたいということ、また地域コミュニティや役員会などにも説明に上がっておりますが、その際、その場で出尽くさなかったところの部分というのは3月3日というのをめどでこども支援課の方にお寄せくださいと言うようなご案内をさせていただいております。公表というところの部分では、原案をお示しするという形のところで公表という風な形を想定させていただいております。

(会長)

委員、5W1Hとおっしゃっていたのはどこのことですか。

(委員)

いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どうしたということを説明の中に入れていただくと説明が分かりやすいなと思ってますので、例えば先程の原案は誰が取りまとめて、いつどこでどのように公表するのかというところを聞いたかったのと、素案について子ども・若者未来会議などからのなどはいつどこで、何回、誰宛に説明をどうされて取りまとめるんだろうなというところを聞いてみたかったんです。

(委員)

清和台の方の原案は仕方がないのかなと、今日のお話を伺うとその辺りは思うのですが、先程ご意見もありましたけれどもプロセスとかはできる限りの丁寧な説明をどこまで行政の方でしていただけるのかという点はちょっと気になるところかなと思いますので説明の仕方というものを考えていただければと思いました。

(会長)

具体的に素案が出てきて、こういうものを在園児さんにも説明していただくのは当然なんですけどその辺りはどのぐらいのスピード感なんですかね。先程ちょっと飛ばしてしまったんですけど、私が言いたかったのは母園がなくなるという事についてやはり卒園児の方々やそういう方がちっちゃい時に育った場所をアイデンティティを培うような場所だったはずなんですけれど、それがなくなるということについてやはり何か説明をしていただく必要は十分あるかとそういう風に思います。ずっと自分の母園が残っているって言うことは本当にありがたいことなのかも分からないですけども、でもやはりそういう卒園した方々の想いなんかもきつつまった園舎だろうしそういう場所だったと思いますので、そうい

う思いがそこで地元の人たちにそういうものは大事にして考えていただけたらなあという風に思います。

委員、この素案についてでも結構ですし、今もやはりどんどんと民営化が図られているようなこの時代にあつて公立の園の使命であるとか役割であるとかそういう風なところでちょっと考えがとおりでしたら少しお話いただけたらと思います。

(委員)

川西市が子育てをどのように考えていくのかなっていうのがベースかと思うんですね。色々資料を見させていただくと今の川西市子ども・子育て計画の中にも色々書かれていると思うんです。今回の2つの素案っていうものがこの子育て計画に反映していなければいいなというのと、やはり川西市は今後どうやって子育てというものをサポートしていくのかっていうところ、認定こども園になろうとも保育所、幼稚園であろうとそこは変わらないのではないかなと。なんとなく計画だけは立てるんだけどそれに代わる施策っていうものをどの程度説明があつてこれはやめるけどこういうことをやっていきますということを言っていたかないと市民の方々は不安になるのかなと。どんどん削られていく一方じゃないかそれは仕方がないのかもしれないけど川西市としてどうやって子育てを盛り上げてもらえるのかっていうところを言っていたかればいいのか。他市のところも色々やってると思うんですけど川西はどこなのか、どういうところが売りなのかっていうのは今回素案も含めてアピールをしていただければすごく川西としていいのかなと思うんですが、ちょっと今日の説明だとそこが見えないなあというのが正直な感想なんですね。一生懸命されているのは分かるんだけどその公立っていうところの加配っていうところも大事だけれどもそれをするによって子育て、他の声もいらっしゃいますから、そういう子どもに対しての支援をこうやっていきますっていうのを言っていたかとおそらく子育て、その上の世代もそうですね小・中・高と全部続いていくと思うのでその辺りは今このベースのところ子育てのところから言っていたかると良いんじゃないかなと思います。

(会長)

地方行政に期待が移り、権限もおりてきてその辺の塩梅がですね、以前は国がやってくれるだろうというところからどんどんと地方自治体が知恵を絞って何かを作り上げていかなければならないような時代にどんどんと移ってきている中で小さな子どもさんが育つ場所、就学前の子どもさんが育つ施設というのはかなり地政的に考える、要するに地理的に考えていく必要がある非常に難しい施設ですよというのがいろんなところで申し上げてましたし、こちらの川西市さんの子ども・若者未来会議のなかでも前から申し上げておりました。実際に子どもがいるところがどこなのか、適正に足で歩くようなところに親子で歩いていけるようなところ、自転車で行けるようなところそういうところにきちんと適正にあるのかどうなのか。それだけでも難しい課題だと思います。さらに親御さんたちが求める保育というのはいろんなバラエティがあつて本当に伸び伸びと過ごしてやりたいなあと思うような保育からもう少し教育的な集団としての動きをクラスとして動くということをしつかりと学んでほしいというところかなと。親御さんの求めるものが多様化してきていると。民間の保育所さん、幼稚園さんがいろいろ切磋琢磨しておられて同じように公立の幼稚園、保育所さんは切磋琢磨しておられると。そういうものをうまく現場でいいものを作り上げるというみんなの気持ちを揃えて、市としての幼児教育保育はこういう風な方針でいくというようなものを今後も続けて立てていかないといけないので、その根底にある川西市はどんな子育て支援をするのかという大きな命題ですよ、その小さな問いを解き明かすことで

大きな問いを解いていくようなそういうプロセスが行政の中には必要なんだろうなという風に思いますのでぜひ今後ともしっかりと見届けていただけたらと思います。

(委員)

清和台幼稚園の今度入園される4歳児さんのところで思ったところなんですけれどもおそらく入園の申込をされたのが10月とかそれぐらいだと思うんですが、それから今1月の終わりまでの間にこういった形で一人しかいません、来年はもうこの幼稚園やるかどうか分かりませんって言うんだったらもう少し早くもうちょっと別の園でちゃんと2年間まとまった園生活っていうのを送らせてあげた方が良かったんじゃないかなと思いました。

(委員)

この8ページの3番の施設についてっていうところで廃園後の施設についてっていうところなんですけれども牧の台みどりこども園ができた際にみどり保育所が廃園になっていると思うんですね。よく私も通るんですけど雑草だらけで今はちょっと刈ってあるんですけども本当に放置したままでなんの利用もされてないっていう状況ではあるんです。せっかく保育施設なりそういうところが施設として残っているのであれば建物は無理なのかもしれないですけども、また再度子どもたちのために利用できるように小学生とかでもいいですし、子どもの居場所作りってところでそういうところをやろうとしているその地域の方もいらっしゃるので、みどり保育所は牧の台地区ではなくて大和の方に牧の台の地域になって東谷の方ではコミュニティさんがそうした子どもの居場所っていうことでフードパントリー等をやってみて一応私もお手伝いをさせてもらってるんですけども、そういう子どもの居場所づくりっていうところで図書館なりそういう施設っていう子どものための利用方法をまた今後考えていって欲しいなと思います。そしたらやっぱり卒園した子どもここに幼稚園あったなっていうのを思い続けられるんじゃないかなっていうのはちょっと感じました。

(委員)

私は地域代表として来ています。その中で委員がおっしゃいましたように9ページの素案について子ども・若者未来会議などからの「など」は私もすごく引っかかりまして、他にどんな団体から聞いているのか気になりました。聞きますと地域コミュニティからも意見を聞いていることなので私は大変ありがたいことだと思っています。地域の意見なくして一方的に進めると絶対摩擦が起きますのでその点は安心いたしました。もう一点8ページのところの清和台幼稚園のあり方についての素案の4番の(2)の②のところがすごく優しい書き方をしていますが、もっとストレートでもいいんじゃないかなと。令和5年度は保育は実施せず令和5年度に5歳児クラスになる在園児については転園先の斡旋調整を行いますというような、「など」という言葉でいっぱい書いてあるんですけども、もっとストレートでいいんじゃないかと。先程委員も仰ったように、早くアナウンスをしてあげるという意味では優しい書き方だなと思ったところでございます。

(会長)

コミュニティを耕すというかコミュニティをしっかりと作り上げるというのはいろんなところで課題になっている中でぜひそういう資源がコミュニティの意見によって活用できるということを期待したいと思います。

(委員)

清和台幼稚園のあり方の素案なんですけども、今後ベースになって東谷幼稚園がなくなる時もこれと同じような素案でなくなっていくと思うのでしっかりとお伝えしていくのは大事だと思いました。また、久代幼稚園も南保育所と合併となっているんですけども、加茂のこども園にいかれている方は1号認定のかたで久代地区の方が何名かいらっしゃると思いますが、加茂のこども園は令和3年にかけてずっと減っている状況なんですけども、久代のこども園ができるとさらに減るんじゃないかという点があります。

(委員)

自分も大学3回生で本当に幼稚園は卒業せずに別の場所に引っ越したので年中までしかいなかったんで記憶がちょっと曖昧で自分のこと思い出しながらお話とか色々聞かせてもらったんですけど、見ていく中で清和台幼稚園のあり方についてのところの③施設に関する質問があって、廃園後の施設についてのその地元住民の意向なども考慮して検討するっていう風を書いてあると思うんですけどどういう風に住民の方に今後施設をどういう風にしていくのかっていうのを聞き回るのかっていうことと過去にも廃園になった幼稚園だったりとかそういう場所を別のものにしたっていう事例みたいのがあれば教えていただきたいなっています。

(事務局)

廃園になった後の施設のあり方についてでございますけども、実は先程ご紹介いただきました緑保育所も含めましてそれ以外も松風幼稚園でありますとか加茂保育所でありますとか、その後の対処の方向性が定まっていない施設が非常にたくさんございます。そういった状況はやはり相応しくないだろうと思っておりますので、来年度以降の話、この4月以降の話になりますが、そういった事柄を集中して検討していくようなそんな組織を設けましてそこが中心になって地域の方の考えも踏まえながら行政の課題もございまして、いろんな要素を考え合わせて最適な活用方法を考えていく、そういった取り組みをさせていただきたいなと考えているところです。

廃園になった後の活用方法というようなことでございますけども、幼稚園が廃園になったケースもございました。その跡地に幼保連携型の認定こども園を整備させていただいたというケースはあるんですけども多くの施設がその後の対応方策が決まらないままでございますので、新しい組織の中でしっかり検討させていただきたいという風に考えているところでございます。

先程、清和台幼稚園のことで1名新たに入園されているお子さんへの説明等のご意見いただいたかと思うんですけども、同じようなことを私どもも心配しておりますので、来年度場合によってはお一人になってしまうかもしれないということについては入園願書を出されたときにご説明をさせていただいております。場合によっては5歳児の時点でこの園がどうなるかということもそのときに合わせてお伝えはしているんです。ただ、清和台幼稚園に想いをお持ちでしたので例え一人になったとしてもぜひ入園をして幼稚園での教育保育を受けたいという風な想いがありでしたのでそれではということで入園をさせていただいて清和台幼稚園で過ごしていただくと考えているところでございます。

9ページの「など」というところで、子ども・若者未来会議などということで色々のご意見をいただいているんですけども、先程もご説明させていただいたように地域のコミュニティの代表の方を含めまして、関係する保護者の方や現場で頑張らせていただいている職員の方にも説明をさせていただきます。

またホームページの方にも素案を掲げておりますので、それをご覧いただいた市民の方からもご意見などを伺いたいと思っております。コロナの時代ですので、集まって説明をさせていただくのは非常に難しいところではあるんですけども、しかも限られた期間という中でということですので、非常にしんどいところでもあります。できるだけ多くの方のご意見を頂戴しながら最も適切な方法というものを考えていきたいと思っております。令和4年4月には原案を取りまとめて、取りまとめ次第公表をさせていただきたいと思っておりますけども、市の方が策定をさせていただいて、子ども・若者未来会議の方にもおうかがいさせていただきますし、市議会の方にもお知らせをさせていただく、ホームページを通じて市民の皆様にも周知を図りながら清和台幼稚園についてはこの原案に基づいた対応方策を進めていきたいと思っておりますが、それ以外については来年度検討、策定させていただく予定をしております子ども・若者未来計画（仮称）でございますけども、そちらに盛り込むような形で検討を進めていきたいと、取りまとめていきたいと考えているところでございます。

（委員）

高等学校で言うと第2学区で学びたいことが学べる学校ということで選択肢がたくさんあって、各高校が特色を出しながら教育活動を行なっているんですけど、小さなお子さんの場合はそういうわけにもいかないで、住んでいる地域とか職場のところとかで、地域的にかなり行ける範囲が制限されると思いますので、各園については一定程度の教育の質というものを行政の方で引いていただいて特色は出すところは出すけれども、全体的に質の均一化というところをある程度はしていかなければならないのかなと思います。

2つ目は、今回議題に出て来た部分が早急かなというご意見が委員の先生からあったと思うんですけど、確かにその通りで、ただ私自身はスピードは大事だと思っているんですけども、その反面、該当される方についてはすごく大事な問題なのでこれから方針とか見込みとかいうところは丁寧に広報されていながら説明されていくというところが必要だと思います。今事務局の方のお話を聞きますと、非常にこれからの流れとしては丁寧な、パブリックコメント等も受けるということも言われておりましたので、その点については今言われた事務局の方針の方でいっていただけると我々も安心かなという感じを持ちました。

（委員）

清和台南、本当に当事者といいますか、当事者になるんですけど私も清和台幼稚園の先生と色々話すことがありまして、そう言った想いを聞いておきますと、胸がいっぱいになって今日喋れなかったんですけど、清和台幼稚園も限られた条件の中で精一杯のことをされてきたかと思うんですけども、やはり幼稚園というのは保護者がどこに行かせるかというようなところは保護者の意向というのが大きいので結果的に現在のようになったのかなと思っています。私の学校も、児童数がどんどん減っていきまして、来年は2学年単学級ということになっております。話は、はずれるんですけど私は小さくなれば小さくなった逆によさというのを発揮して、先ほどもありましたように保護者の皆さんが安心して預けておられるような学校を作っていこうかなと思います。私からのお願いですけども、やはりなくなるということは、非常に大きなことだと思います。やっぱり丁寧な説明をお願いしたいということとともに、私もそのお手伝いをできればなと思っています。

（会長）

今文科省さんが新たな学力と言い出す中で、従来の知的なものではなくて頑張る力であるとか資質、コンピテンシーも含めて子どもたちを育成しなければならないという時代に、一人一人の子どもさんの学力というものをどう考えていくかという大きなテーマがいろんな学校において来ているわけなんですけども。その中で今後の幼児教育がどうあるかということもぜひ研鑽していただいていると思うんですけど。いい幼児教育を展開するような自治体さんには若い方々が集まってくると思いますので、期待したいと思います。

(委員)

清和台幼稚園については確かに資料を読む限り廃園は致し方ないのかなという思いはあるんですけども、このまま市内の幼稚園が廃園の流れになるという方向は悲しいかなと思いました。会長も仰ってましたけど現場のニーズに合わせた幼児保育の形というのをもっと早くしていたらとか、委員がおっしゃっていたように川西市としてどんな教育を目指していくのかというところをこれからもうちょっと真剣に考えていってほしいですし、少子化だからこうやって縮小の方向にという風に考えていくんじゃないくて、少子化だからこそ子育て世代に川西市を選んでもらうためにはどうしていったらいいのかというところまで前向きなビジョンを打ち出して、子育て世代の流入という視点を持って施策を打ち出していただければありがたいなと思いました。

(会長)

日本全国が少子化の時代に子育て、先程委員がおっしゃっていただいたのですが、子どもを育てるということについて、社会がどんどん関わっていく必要が出てきているそういう時代になってきていると思うんですね、その中で子どもさんの個性あるいは能力、人格そういうものを育て伸ばしていくという子育てには親だけではできないような時代になってきているわけですよ。今新たな幼児教育のあり方とか教育のあり方、あるいは親の子育てを支える様々なサービスが出てきているわけなんですけども、その中で親御さんたち自身も学んでいただき、ある場合は子どもの学力に対する考え方やそういう風なものも変わっていただく必要があって、そういうことも含めて幼児期の先生方の子どもさんと保護者への関わりというのはすごく重要だなという気がするんですね。地域の中で非常に身近な施設の中で、施設として存在しながら親御さんと子どもさんに新たな時代の新たな幼児教育や保育を提供するというのをぜひ進めていただけるような体制になればいいなと思います。

(委員)

今の意見を言っていただいて本当に前向きにいろんなことがこれから進んでいけばいいなと思っています。ただ地元の幼稚園が廃園になるときは本当にたくさんの地元の意見や通わしている保護者の方それからこれから通わせたいと思っておられた保護者の方からたくさんの声を聞きました。やはり歩いて行けるようなところ、通いやすいところになくなってそれでも公を選びたいという風に言ってくれる方がいるということはこれまでの川西の公の就学前の教育保育に一定の評価をしていただいていたのだらうと思うのでそれはありがたいと思うんですね。それでも行きたいというのが園区が広がって園区も変わって幼稚園は園区がありますので、どうやっていくんだという風になってきたとき途方に暮れるんです。行政の担当者がやってくれる丁寧だと思ってるやり方と当事者とか地域がここまでやってもらえたら丁寧だと思うところで多少乖離があったかと思っていますので、今後また今回の清和台幼

稚園の後も出てくるとしたらこれまでのことも踏まえてその辺のところはより一層丁寧にやってほしいなと思います。

(会長)

今文化の時代と言われて、予測不可能、答えが一つではないそういう時代を迎えてですね、正解は一つではない中でどれが一番ベターなものかという選択的な答えですよね。あるいはみんなが納得する納得解ですかね、そういうものを探していかないといけない時代になってきているんです。今回の案件の中でも納得解ができるかどうかそういうことをずっとしていかなければならないものだと思っていますのでぜひ丁寧に市民の方の納得を一人でも多くの納得を得るとそういうところを探りながら多くのかたが賛同していただけるそういうものを探していく必要というものがあると思います。

質問、意見なし

他に質問等はありませんか。

質問・意見なし

(会長)

これで令和3年度第2回川西市子ども・若者未来会議を終わります。司会を事務局にお返しします。

(事務局)

あいさつ

(閉会)